

## 平成29年度 ハンズオン支援の事例

### 桑名地域

一般社団法人 あさひファーム (桑名市)

### 四日市地域

鈴鹿連峰パイヤ研究会 (四日市市)

A g r i ロマン鈴鹿 (鈴鹿市)

農福連携をまな部会 (鈴鹿市)

### 津地域

J A三重中央加工野菜産地ベジマルファクトリー (津市)

八十六石まこもの集い (津市)

高野尾花街道朝津味 (津市)

津安芸ネギ生産部会 (津市)

### 伊勢地域

大瀬施設検討委員会 (大紀町)

### 伊賀地域

勝地ふるさと守り隊 (伊賀市)

農事組合法人 下友生ファーム (伊賀市)

# 一般社団法人 あさひファーム（桑名市）

当事業所は、A型事業所の認可を受け、農福連携でカット野菜工場や量販店向けのネギに特化した農業生産を行っています。

地域では農業の担い手が高齢化、減少しており、耕作放棄地が増加している一方で、障がい者や子育て世代の女性は働く意欲があっても、就労の場が少ないので、こうした人たちが農業の現場で働けるような環境を整備し、農業生産を維持していく必要があります。



- ・法人設立（H23年6月22日）
- ・A型作業所を設立（H25年11月1日）
- ・高齢者や主婦と障がい者が共に働く場

## スタートアップの取組

ネギ生産について、順調であったが、平成29年1月の雪害被害で大きく減収となったことを受け、その対策としてトンネルアーチを設置することとした。



葉ネギの  
定植

## 1 方針

- ・障がい者が主役、職員は脇役である。
  - ・皆で最初は石拾い、草取りから始める。
  - ・失敗を許す。（失敗は成功の元）
  - ・温かく見守る。（命令しないでお願いします）
  - ・障がい者に自主的に仕事を遂行できるよう仕向ける。
- 例えば栽培管理表の作成⇒播種、育苗、畝立、定植、施肥、防除、除草、草刈、収穫、出荷、運搬



トンネル  
アーチの  
設置



トンネル  
アーチに  
よる栽培  
状況

## これからの取組

農業による障碍者の就労支援継続  
野菜の栽培（ネギの栽培がメイン事業）  
社会福祉法人と共同して農作業を推進  
ネギの播種、育苗、集出荷調整等の作業所支援  
作業委託や支援学校等の実習の受入れ

## 1 今後の経営方向

- ・認定農業者の認定（H30年3月1日）
- ・農地の規模拡大  
250a
- ・土づくりの実施  
バーク堆肥＋深耕
- ・機械化  
マルチ機、定植機、収穫機等の導入

# 鈴鹿連峰パイヤ研究会（四日市市）

研究会がパイヤを栽培する農地は、四日市市川島町で県営基盤整備事業により大規模に開発された地区にあります。郊外ではありますが、周囲は住宅団地が広がり、高速道路のインターチェンジへも近く、都市近郊農業や観光農業へ発展が期待される地区です。

しかし、地区の農業者の高齢化や適地作物が定まらないこと等により遊休農地が増加する傾向にあります。このことから、労働負担が比較的軽く、目新しく有利な販売に結びつくと考えられる青パイヤの栽培定着と拡大に取り組んでいます。



## スタートアップの取組

新規作物である青パイヤの試験栽培、販売促進、消費拡大に取り組んでいます。

### 1 四日市農芸高校生によるパイヤ料理レシピ考案

当地域では、青パイヤの食べ方がまだ知られていないため、農芸高校に依頼し、青パイヤや乾燥粉末を使った複数の料理レシピを考案してもらいました。

この協働活動は地元紙にも掲載され、また考案したレシピは販促材料として活用しています。

### 2 パパイヤ苗の安定供給のためビニールハウス利用

ビニールハウスを修繕し、春先からパイヤ苗を安定供給出来るようにしました。



高校生が考案した料理例



苗生産ハウス



試作したパイヤ茶



パイヤ茶紹介活動中

## これからの取組予定

引き続き、消費拡大のため、地区行事での紹介、販売先の開拓、青パイヤの加工品の開発を行います。また青パイヤの栽培農家、栽培面積増加に努めます。

### 1 消費拡大のために

パイヤのわき芽等を利用したパイヤ茶や乾燥・粉末パイヤの商品開発に取り組みます。また、地区の行事において食べ方の提案をしていきます。

### 2 生産拡大のために

栽培農家と連携し、面積拡大のため、栽培方法、栽培成績等を地区の会合等で紹介するとともに、苗の安定供給ができるよう対応していきます。

# アグリ Agri ロマン 鈴鹿 (鈴鹿市)

Agri ロマン 鈴鹿は、鈴鹿市内の農村女性で構成するグループです。市内の様々なイベントでの農産物の販売、親子料理教室や出前講座の開催などを通じて農村の活性化や地産地消、食育の推進に取り組んでいます

近年は、子供たちの地域の農業や農産物への理解を深める食育に力を入れています。子供達だけで調理から後片付けまでを行うキッズ料理教室等を企画開催するとともに小学生が授業で栽培した大豆やサツマイモを使った料理教室への出前講座も増えています。



## スタートアップの取組

地産地消および食育活動を通じて子供達の食に対する関心を育んでいます。出前授業や料理教室の増加、会員の高齢化により、会員の負担が大きくなっています。

このため、新規会員を増やす取組をしていますが思うにまかせず、知識の継承などが課題となっています。

### 1 キッズ向けのレシピ開発

地産地消を踏まえたキッズ向けのレシピを開発し、料理教室、出前講座で使用するほか、子供達が持ち帰ったレシピを家庭でも活用できるように工夫しました。

### 2 レシピ集の活用

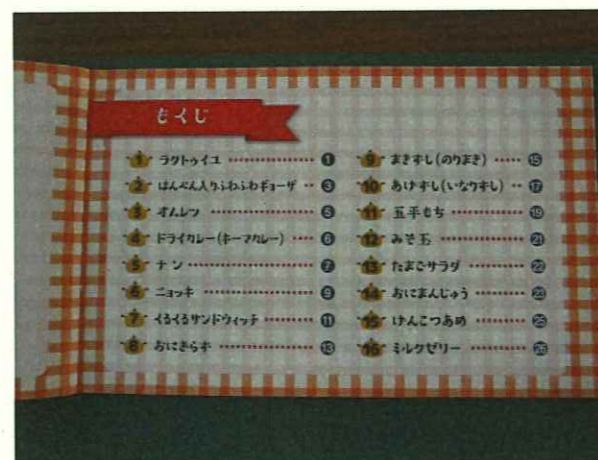
キッズ向けレシピを使用した料理教室や出前講座を年10回開催しました。



料理したくなるレシピ



具体的にはこんな感じ



メニューはいろいろ



キッズ向け料理教室の様子

## これからの取組予定

引き続き、地産地消および食育活動を通じて、子供達の食に対する関心を育むとともに、地域の方にも活動に参加してもらうことで、地域の活性化を目指します。

### 1 地域への活動の波及

活動を通じて、地域の方に地産地消および食育活動を知ってもらい、会員数を増やし、活動の継続を図ります。

### 2 料理講師の確保

会員の高齢化や出前講座や料理教室の増加に対応するため、料理講師を増やすことが必要であり、研修会等を通じ人材育成を図っていきます。

# 農福連携をまな部会（鈴鹿市）

当部会は、障がい者の就労支援に理解のある植木農家と農福連携を行っている福祉事業者で構成する勉強会です。

平成29年度は、三重県の農業分野における施設外就労現地実証事業などに協力しました。施設外就労を受け入れた植木農家は、障がい者就労への理解が深まるとともに、福祉事業者も農作業の実際を見ることができ、障がい者の就労機会の拡大に向けて勉強会の議論が深まりました。



## スタートアップの取組

県事業、市事業を利用して部会員が施設外就労を実施しました。

また、実際に農福連携で活躍している浜松市の水耕農園の取組を視察しました。

福祉施設利用者向けパンフレットを作成し、利用者を増やします。

### 1 部会員が施設外就労に取り組む

施設外就労を実施したところ、利用者のみならず、職員、農業ジョブトレーナーなど多数が参加しました。

### 2 先進経営を視察

浜松市で水耕野菜の生産を行っている京丸園株式会社（撮影禁止）を視察。社長から、経営や作業の工夫などの説明を受けました。

### 3 農福連携推進のパンフレット作成



部会員 施設外就労に取り組む



パンフレットの表紙



就労中の障がい者



パンフレットの内容

## これからの取組予定

継続した取組に向け植木農家と福祉事業者間で課題の共有を行い、解決に向けた取組を検討中です。詳しくは

[農福連携をまな部会](#) で [検索](#)

### 1 作業内容の決定、改善

まな部会で施設外就労としてお願いできる作業をリストアップ。

福祉事業所と協議し決定しますが、実際に働く利用者さんの要望にも随時応えていきます。

### 2 あなたらしく働いてね

施設外就労は、原則、作業委託方式で依頼します。

取組のゴールは、障がい者の能力アップ、やりがいアップ、工賃アップになるとともに、福祉事業所と農業者の双方が経営的にプラスなることです。

# ベジマルファクトリー 八十六石まこもの集い (津市)

地域の紹介・・・山間地から平坦地と起伏に富んだ農業地帯であり、雲出川が中央部を流れる良質な「一志米」の産地としても有名です。

地域活性化プラン全体の取組みの紹介・・・野菜生産者の安定した所得確保の為、JA三重中央では平成18年から農産加工施設「ベジマルファクトリー」において、地域農産物を使ったカット野菜を製造し各地に出荷しています。また、地域の特産品「まこも」の生産者組織と連携し、新商品の開発にも産学官で積極的に取組みを展開しています。



## スタートアップの取組

マコモ等の地域の素材を生かした新商品（惣菜）の開発にあたり、試作品を作り、試食会などを経たうえで、地域の素材を生かした安心安全で親しみやすい商品をイメージさせるパッケージ、ロゴを作成した。

- 1 目指すもの・・・リピートされる惣菜シリーズの開発

ベジマルファクトリー、また、その商品に対する認知度アップ

- 2 ターゲットは...

管内の直売所等を利用する地元の人（リピーターの確保）  
・食に関心が高く、地元指向の強い人  
・調理の負担を軽減したいと考える人（女性）



生産者全員集合



デザイナーを囲んでパッケージを検討

## これからの取組予定

地物が一番！地元産野菜をより多くの人に手軽に食べてもらうため、下記の事業に取り組む。  
・ロゴマークを活用しさらなる商品開発とPRにつなげていく。  
・産学官で新たな商品開発に取り組む。

- 1 生産者とJA・ベジマルファクトリーがタッグを組んで企画開発した惣菜等を販売・PR

材料は、地域の「まこも」をメインに他の食材も100%国産にこだわり、安心安全をモットーにしたお惣菜として商品化した。

地域で頑張る生産者をJAと消費者が支える。

あさつみ

# 高野尾花街道 朝津味 (津市)

高野尾地区は、三重サツキの一大産地でしたが、花木の需要が減退し地域農業の活力低下が課題となっていました。そこで活性化構想を地域の農業者が策定し、その構想を進める法人「(株)フューチャー・ファーム・コミュニティ三重」を設立し、「高野尾花街道事業」がスタートしました。

本事業は、県内最大級の農産物直売所「朝津味」を中心に、様々な取組みを行なっています。



## スタートアップの取組

津市および周辺地域から広く農業への関心がある方へ呼びかけ“農業体験”や“農業講習”を中心とした「農業塾」を開設しました。

農業への理解促進、農業の担い手の育成をめざしています。

### 1 農業塾の安定した運営のための環境整備

塾生が農業塾の圃場管理に使用するための刈払機の導入、水はけをよくし農作物の栽培に適した土壌条件を整えるため大型機械での耕うん、農業塾の看板の設置等、農業塾の安定した運営のための環境整備を行いました。

### 2 こだわりの土づくり講習会

農作物の栽培の基本となる土づくりへの理解を深めるために、土作り講習会を実施しました。



農業塾に看板設置



こだわりの土づくり講習会



刈払機の導入



実習風景 (植付け)

## これからの取組予定

朝津味のファーマーズマーケットの特性を活かした「売れる農業」を目差しています。栽培から販売までを実践することで、持続的な農業を経済的な側面から実践していきたい考えです。一過性の趣味の農業ではなく、農業の担い手を育成を目差します。

### 1 持続的な農業者育成

塾生が販売し、売上を上げることで、継続的に農業を行なっていただく基盤を作ります。中高大学生も参加することで、将来的に「農業」という産業について考える試みとする。

### 2 農業シンポジウムの開催

高野尾農業塾の活動を通して、「これからの農業の働き方」をテーマにシンポジウムを開催します。これまでの取組みから、これからの農業活動を考えていきます。

# 津安芸ネギ生産部会（津市）

津市は県の中央部に位置し、伊勢湾岸の平野から奈良県境に接する山間部に至る広い地域で、雲出川及び安濃川の中流から下流部一帯は肥沃な穀倉地帯を形成しています。

津市の芸濃地区及び雲出地区などの津安芸地域において、市場における需要の高い「白ネギ」を新規品目として導入し、白ネギ産地の確立を目指して、生産拡大を進めています。平成29年度には「津安芸ネギ生産部会」が設立され、この部会を核として、新たな白ネギ産地の確立、地域農業の発展を目指します。



## スタートアップの取組

機械化体系の導入による省力化および規模拡大、また新規栽培者の確保に向けて、白ネギ生産に係る資材を購入し、実証しました。

### 1 収穫作業省力化の検討

白ネギの収穫には、収穫物をまとめるためにコモやコンテナの使用が一般的です。規模拡大には収穫作業の効率化が不可欠であるため、ネギ収穫ネットを試験的に導入し、効率化の確認を行いました。



ネギ収穫ネット

### 2 機械化体系の導入

部会設立時に収穫機を導入しました。白ネギ栽培において収穫および出荷調製作業は労力のかかる作業であり、規模拡大にはその作業の省力化のための機械化体系の導入が必要なため、導入に向けた支援を行いました。



ネギ収穫機



現地巡回



出荷目揃い会の開催

## これからの取組予定

当部会は設立されたばかりであり、新規栽培者が多く、走り出したばかりです。そこで、持続性のある・信頼されるネギ産地を目指して取り組んでいきます。

### 1 栽培技術の確立

生産性向上・品質統一に向けて生育ステージに合わせた栽培研修会を実施し、定期的に現地巡回を行い、部会としての栽培技術の確立を進めます。

### 2 新規生産者の確保・規模拡大

部会で導入した機械を有効に活用し、個々の生産者の規模拡大を進めるとともに、新規生産者の確保も進め、産地規模の拡大も図ります。



# 大瀬施設検討委員会（大紀町）

度会郡大紀町野原地区は松阪牛の肥育産地であり、小規模ながら水稲・茶・野菜栽培もされています。しかし、農業者の高齢化や獣害等により、年々耕作する人が減ってきています。

一方、地区には七洞岳や宮川、お葉つきイチョウなどさまざまな地域資源があり、そのような資源を活用して現在の農村、コミュニティを維持していくことが大きな課題です。

そこで、地区に寄贈された偉人「大瀬東作」氏の生家を農家民宿として活用することで、地域外から人を呼び込み、地域活性化につなげていきたいと考えています。



## 農家民宿としての活用

古民家を農家民宿として活用するために、資材を購入し、住民の協力により補修を行いました。平成29年11月より運営を開始しています。また、農業体験に活用する農地のための資材を購入し、管理を行っています。



大瀬東作氏生家の活用



民泊「東作塾」

## 大瀬東作氏について

明治18年に七保村野原に生まれ、七保村の村長として三重県町村会・全国町村会の創立に携わり、義務教育費国庫負担の運動を繰り広げ、大きな功績を残した人物です。



大瀬東作氏胸像



CSR地域ワークショップ

## これからの取組予定

民泊「東作塾」をたくさんの人に利用してもらえるよう、東作塾や地域のPRを行うと共に、農業体験メニューのブラッシュアップを行っていきます。

### 1 大紀町活性化協議会との連携

大紀町活性化協議会がインバウンド受け入れに力を入れているため、協議会と連携し、インバウンドに対応した受け入れ体制を構築していきます。

### 2 CSRの取り組み検討

地区では企業と農村お互いにメリットのある関係を築く取り組みを検討しており、大瀬施設の有効活用が期待されます。

# 勝地ふるさと守り隊 (伊賀市)

勝地地区は、伊賀市南端の旧青山町北部に位置する水稻作中心の地域です。平成26年に「勝地ふるさと守り隊」を結成するとともに、多面的機能支払を活用することにより、地区の農業と環境を守る活動に取り組んでいます。

勝地地区の高齢化率は高く、後継者不足も深刻なことから、平成29年8月農事組合法人「勝地の里」を設立しました。

地区の農業を地区で守るため、「勝地の里」が継続可能で、安定的な農業経営を確立することを目指していきます。



## スタートアップの取組

農事組合法人が作業する全水田に看板を設置。受託した水田に看板を設置することで、法人によって農地が適切に管理されていることを地区の農業者にPRし、組合加入者の増加及び「勝地の里」への集積面積拡大に繋がっていきます。

### 1 農事組合法人への農地集積

農地を集積し、共同経営を進めることにより、「勝地の里」の作業効率化や機械施設の更新にかかる負担減等を図ります。

### 2 農地集約化の効果

農地の集約化が図られることにより、土地利用計画が策定可能となり、病害虫防除の一斉実施が可能となりました。また、これまで個人ではできなかった小麦の集団栽培にも取り組んでいく予定です。



スタートアップ支援 (資材)



資材活用後 (看板)



看板が設置された一団の農地

## これからの取組予定

農地集積による経営規模拡大をすすめるとともに、水稻の収量向上・高品質化、新品目の導入検討を進め、継続可能で安定した農業経営を確立するとともに、勝地地区の農業・環境を守り続ける体制を構築します。

### 1 農地集積及び規模拡大

「勝地の里」を営農による収益で運営していくためにも規模拡大は必要であり、さらなる農地集積による規模拡大を進めます。

### 2 オペレーターの確保・育成

今後、「勝地の里」の営農を持続するには、オペレーターの存在が不可欠であることから、オペレーターの確保育成と技術力の向上に努めていきます。

# しもともの 農事組合法人 下友生ファーム (伊賀市)

下友生地区は伊賀盆地のほぼ中央付近、久米川沿に沿って広がる水田農業地帯で、「コシヒカリ」を主力品種とする伊賀米が生産されています。また、地区では平成2年に営農組合を設立、平成27年には営農組合を法人化し、地区の水田を守る活動を続けてきました。

地区の水田を守るため、営農組合の収益力を向上し、次世代に引き継ぐことに取り組んでいきます。



## スタートアップの取組

収益力向上のため、米の直接販売に取り組んでいることから、新規顧客開拓、販売量拡大のための販売促進用資材を整備しました。



マスコットキャラクターシールと手提袋・封筒

### 下友生ファームブランド確立

米の直接販売開始以降、下友生ファームブランドの確立に取り組んでいます。米の販売用袋(30kg)には、公募・選定したマスコットキャラクターを使っています。最近では、贈答用米(2合袋)の販売にも取り組み始めました。



贈答用米袋(2合袋)



専用米袋(30kg袋)



商談力向上研修会

## これからの取組予定

収益力の向上を図るため、組織体制の充実、水稻等の生産性向上および直接販売の拡充等に取り組んでいきます。

### 1 JGAP取得の検討

安全安心な米作りを消費者にPRし、下友生ファームブランドを確立するため、JGAP取得を検討していきます。

### 2 生産性向上

収益力向上を図るため、水稻、小麦、大豆の低収要因を解析し、収量向上を図ります。

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農業基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122